
峠バトル2010

谷山 颯斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

峠バトル2010

【Nコード】

N1445J

【作者名】

谷山 颯斗

【あらすじ】

西暦2010年・矛盾峠は路面の全面改修のために一時通行止めで来年の2月まで走ることとは出来ない。そこで先日無料化された矛盾ターンパークに車が集まっていた。

ACT. 0 「スタートライン」 (プロローグ) (前書き)

去年ブログで投稿していた小説の続編です。

良くも悪くも素人小説なので分かりにくかったりかなりマニアックなものも出てしまいますがよろしくお願いします。

ACT. 0「スタートライン」(プロローグ)

一台サンバーストイエローのFD（以降FD）が峠を攻めている。
主人公の深川 零の姉野村 光のクルマである。

トンネルを抜けセミウエットの緩い左コーナーを抜ける。

またトンネルに入りトンネルを抜けたらキツイ右コーナーをドリフトでクリアしてふり返しの左コーナーへ……しかし角度が付きすぎて

ズシャツ・・・ゴギャー・・・ガクン

派手なスキール音と共にタイヤスモークが上がる

ふり返すときに濡れたマンホールに乗りスピンしてしまったのだ。

するともう一台、スノーホワイトマイカのFD（以降FD-RZ）
がやってきた。

後ろから遅れてやってきたFD-RZは主人公の深川零のマシンである。

「だから言ったじゃん。タイヤが終わってるって」

無線で光に呼びかける

「ぶー！しょうがないじゃない！その他のメンテナンス代だってバカにならないんだし」

光のRS-Rが履いているのはブリジストンのポテンザRE01Rだ。

本当は、もうスリップサインが出ているにもかかわらず無理して使っているためにタイヤがズルズルなのだ。

「何処かポテンザRE11が4本で1万円くらいのところって無いかな・・・」

「そんな店があったら逆に問題有りだよ！」
と零に突っ込まれる光だった。

翌日

結局、光のFDはRGIでタイヤ交換をしている。

タイヤはディレッツァスポーツZ1スタースペックとなった。

ついでにアライメントの取り直しを行っている零のFD-RZを見ながらハルカと零が話していた。

ハルカ「ねえ、零君」

零「ン？」

アライメントをとっていたハルカが零に話しかける

ハルカ「あの二人は公道を走る意味が分かったと思う？」

零「あのFCの？」

FCの二人とは前作「峠バトル2008」で最終回に登場した二人のことである（ブログを参照）。

ハルカ「うん」

零「さあね、それは本人たちに聞いてみるしかないんじゃない？こっちにしてみれば思いが届いてるって願うしかないんだからさ」

このごろ拓也も出しゃばってこないしねとつぶやく零はどこか不安そうだった

続く

ACT. 0 「スタートライン」 (プロローグ) (後書き)

ご意見感想などお待ちしております。

ACT. 1「思い出のFD2」(前書き)

ここでは登場人物やマシンの商会をしていきたいと思っています。

深川 零..19歳。現在は大学に通う傍らS耐のRGI TOYONダ・CBR1100XXスーパースラックバードを所有。

RX-7 (FC3S)のドライバをこなす。日常生活の足に愛車はマツダ・RX-7 TypeRZ (FD3S・2000年10月300台限定生産車・スノーホワイトパールマイカ)

最大出力..385ps/6800rpm・最大トルク..36.2kg/4800rpm

ACT. 1「思い出のFD2」

零は久しぶりに遠出をして四ッ谷峠に来ていた。

今日はFD-RZではなくシビックType R MUGEN RR
だった（前作のバトルの中で零が使っていたマシン）。

このマシンは零と親友だった拓也と一緒にセットアップしたクルマ
なのだ。

正確には拓也の買った初めてのクルマだった。

その当時、ビッドブルーパールのインテグラType R（実は親
の車）に乗っていた拓也が、はじめて買ったのが当時300台限定
で発売されたFD2の MUGEN RR 仕様車だった。

しかし、2008年のバトルから1年ちよつと。

その後いろんな事があった。

「ねえ、もしかして零？」

ぼーっと景色を眺めていると声をかけられた。

「ん？ ああ、七恵か」

今日はもう一台の愛車、トヨタ・MR2 GT-Sで来ているよう
だ。

「どーしたの？ なんか悩んでるって顔してる」

昔から人の考えを見透かすような発言が多かった七恵だがこのと
ころ核心的には着いてこなくなった。

「ちよつとな、しかし良く2台も維持できるな」

スポーツカーを2台所有するのは並大抵の維持費ではない。

元々MR2に乗っていてGTOが転がり込んできたのだからそれは
大変だろう。

「まあね、とりあえず前作だと全く登場しなくてMR2は設定だけ
だったし」

まだ後書きでも何でもねーよ

「なんだそりゃ」

零も意味不明そうだし

「それより一回やってみない」

チャラチャラとMR2のキーを見せる七恵

「バトルねえ・・・良いんじゃない」

零もMR2とは走って見たかったのだ

「じゃあ、これ使ってスタートしよ」

と取り出したのは打ち上げ花火だった

勝負はダウンヒル一本

ホンダ・シビックType R MUGEN RR (FD2) VS

トヨタ・MR2 GT-S (SW20)

もちろんカウントダウンなど無い

ジリジリジリ・・・ポン！ヒュー！

と言う合図で2台は勢いよく走っていく

スタートで前に出たのはMRのMR2だったFD2はFFなのでスタートは若干苦手だがそれでも食らいついていく。

1つめのコーナーをMR2がイン、FD2がアウトで走っていく。

コーナー入り口ではFD2が差を詰めるが出口ではMR2がFD2を引き離す。

しかしストレートでは7000rpmでシフトアップするMR2に對して9000rpm近くまで引っ張っていきけるFD2が伸びる。

複合コーナーセクションは若干MR2リードのまま走っていく

「次のコーナーを抜けたらデットストレートか・・・」

零はこのコースを知り尽くしていると言っても過言ではなかった。

16歳で免許を取りずっとNSR250Rで走りに来ていたのだから。

複合コーナーセクション最後のコーナー

FD2は立ち上がり重視のラインをとる

MR2はオーソドックスなアウトインアウトをトレースする

3速シフトアップ。

若干FD2がリードを持つ

次のコーナーではFD2がイン、MR2がアウトの形となる
4速シフトアップ

ガクンとMR2が失速する

零は時速を確認する195km。

なるほどと零は4速でそのまま引っ張り前に出る。

そこから余裕を持ってブレーキする

以前は荒れていた路面も去年の改修でかなり良くなっていた。

そのまま七恵は戦意を喪失したらしくかなり余裕を持った運転になった。

零もそれに会わせて走る

〽四ッ谷峠の麓〽

「あーあ、やっぱりリミッターカット買っておくんだった」

と残念そうに言う七恵

そう七恵のMR2はリミッターを解除していないのだ。

「残念でした♪」

とニコニコの零

「零と走るといつもよりスピードが出るから怖いんだよね」

と冗談交じりに言う七恵だがそれはそれで危険なのだ。

自身の限界を超えた時に一瞬でも集中力を切らす〓クラッシュになりかねないのだ。

またいろは坂などの上りと下りで道が別々ならまだしも対面通行での峠は対向車との衝突の危険があり危険なのだ。

〽翌日〽

零は引越しの準備をしていた。

父が気まぐれでヨーロッパに行ってしまったために1人の姉と2人の妹の面倒をみるはめになったのだ。

場所は鈴香市（鈴鹿市の変換ミスではありません）の父の自宅。

先にFD-RZを姉の光に運んでもらい零自身はCBR110XX

で移動する。

F D 2 は元々 R G I の駐車場に置かせてもらっていたため移動は無し。

これから大変になっていく零の明日はどっちだ？

ACT. 1「思い出のFD2」(後書き)

しかし、全く2010年ももうすぐ1ヶ月経ってしまいますね。
とりあえず来月からは1ヶ月に2回ほどのペースでアップしていきたいです。

御意見ご感想などお待ちしております。

ACT2「ワタシノクルマ！」（前書き）

今回はやっと新キャラ登場です。

今回の紹介はハルカです。

一条ハルカ…19歳。大学1年。ホンダ・S2000 Type V Super Turbo (AP2・チャンピオンシップホワイト)。
。最大出力…450ps/8500rpm・最大トルク…45.5kg/4800rpm・車体総重量…1211kg。改造点…アミューズコンプリートマシンのため不明。分かっているのはスーパーチャージャーとターボを積む。スーパーチャージャーは6000rpmを超えると電磁クラッチにより切り離される。日常生活の足にヤマハ・YZF1000Rサンダーエースを所有。セカンドカーに三菱・ランサー1.8 GSR (350ps仕様。フロントはEVO2、リアはEVO3ルック)を所有。

ACT2「ワタシノクルマ！」

三菱・ランサーエボリューション9GT
三菱が送り出した町乗り用のグレードだ。

AYCの設定はなく、ややソフトな足回りのコンフォートグレード。
しかし、エンジンにはRS用が奢られる。

その車をRGIで買った人物がいた。

レーシング・ガレージ・イチジヨウ
某日鈴香市RGI

レッドのランエボを前にテンションが上がりっぱなしの姉、西村
明日香とその弟の西村 弘樹が居た。

「うれしそうだね、姉さん」

と弘樹が聞く

「そりゃそうでしょ♪」

カラーリングまで特注したんだからとニコニコしている

このランエボの色は純正のレッドではなく、ホンダ純正のNRレッドという色である。

NRレッドはホンダのスーパースポーツバイクのNR（750cc）
の専用色で、購入時に明日香がRGIに頼んだ色だった。

ちなみにNRはカウル一式だけで「数百万円」するらしい（その上
購入には車検証が必要とのこと）。

「それでは、説明をさせていただきます」

と販売などの接客を対応する店員が出てきた

「はい」

と明日香はかなり意気込んでいる

「今回、担当させていただきます、深川と申します」

と店員というか零は名刺を差し出す

「深川 零さんですね」

変わった名前だね〜と言う感じの二人を尻目に零は車の説明を始める

「まず、この車は一般車に比べて高性能に作られていますのでアクセルの踏みすぎには気をつけてください。次に・・・」

そして一番重要なところにさしかかった

「えー、この車はGTというグレードのためAYC・・・アクティブ・ヨー・コントロールがついていまして普通ランエボに比べるとサーキットではGS R等にはかなわないと思ってください。

まあ、腕次第ですが。またこの車は初期型のMg（マグネシウム合金ブレード）タービン装着車だったため、納車整備時に対策品と交換しておきました。」

と一通りの説明を終え零は明日香に鍵を渡す。

「ありがとうございます」

さっそく運転席に乗り込みエンジンをかける。

「それじゃあお気を付けて」

零は二人を送り出した。

その頃車内では

「良かったね、どう？気分は？」

と聞く弘樹

「サイコーだよ！」

その顔はその言葉の裏付けだった。

その日の夜。

二人はさっそく矛根ターンパイクに走りに来ていた。

「次のコーナーは軽くブレーキ残して！」

快調に峠を攻めるランエボ

ターンパイクは上りと下りで別々の道路のため（いろは坂のような物です）に対向車とぶつかることはない。

そこに後ろからブラック？（暗くてよく見えない）のマシンが迫ってきた。

トンネルを抜け、きつい右コーナー、その後左のヘアピンと続いてくる。

左ヘアピンでインに入ってきたそのクルマは立ち上がりで前に出た。

「エボ3？」

そのマシンはボルドーマルーン（紫）のランサーだった。

「いや、この音は4G63の音じゃない・・・もしかしたら4G93じゃないかな？」

一般的に知られているランエボの搭載されているのは4G63もしくは4B11だがノーマルさランサーに搭載されているエンジンの中で最速を誇っていたエンジンがある。

4G93 IC付きターボである。2000年まで生産されてきたこのエンジンは4代目・5代目ランサーで最速を誇った。

「じゃあ偽物エボってこと？」

なーんだという顔をしている明日香。

「でも車重は向こうの方がかなり軽いよこっちは1400?くらいだけど向こうは1200?無いんだから！」

ダウンヒルのブレーキングやタイヤは車重が影響してくる。

リアを流しながら次々にコーナーをクリアしていくランサー、それに対しジリジリと話されていくランエボ。

「なんでこんなに突っ込めるのよー！」

さらに後ろからもう一台クルマが・・・。

マツダ・RX-7（零のFD3S）のホワイトだった。

きれいにランエボのラインをなぞるように走るFD-RZ

その差はグングンと短くなっていく。

「何でスピードが違いすぎる・・・」

弱気な発言の明日香に対し弘樹はまだ諦めていなかった

「姉さん、まだ負けた訳じゃない！」

隼人はどう攻めさせるのかを頭の中でシミュレーションしていたのだ
「で？どうするの」

その頃零は前のランエボを抜くかそのまま行くべきか考えていた。

「行くか・・・」

トンネルで並びそのままオーバーテイクした。

その頃ランエボの二人は

「分かったやってみる」

とどうやら作戦が出来たらしい。

ストレートではランエボに分があるがコーナーは2台に圧倒されている。

そこで作戦はこうだ、まず立ち上がり重視のラインをとりストレートを長くとる。そして、一気に抜くと言うことだ。

前を走る2台はきれいにドリフトしてコーナーを攻めている。

一方ランエボはタックインを使いリアを少し流しながらゼロカウンタで抜けていく。

もう麓までの距離がない

と一番長いストレートでランエボが一気に前に出る。

トップギアの5速（ランエボ9GTは5速ギア）全開でストレートを駆けぬけていく。

3台ともほぼ同じ加速だが一番最初に引いたのはFD-RZだった。それは、やはり安全という意識が強いためだろうか。

そのまま次のコーナーにランエボ・ランサー・FD-RZの順で入っていた。

麓までそのまま順位は変わらなかった。

近くにあるガストにて

「勝ったのかな？」

明日香は実感が無いようだ

「勝ったんだと思う」

弘樹も実感が無い

そこへさっきのランサーとRX-7が来た

ランサーから降りてきたのはなんと明日香の幼なじみの一条ハルカだった。

「結構速かったじゃない」

明日香は目が点になる

「ハルカ・・・何で？」

そしてFDから降りてきたのは

「まあ、もうちょっとマージンを持った走り方の方がいいかもね」
ランエボの納車担当だった零だった。

「深川さん！」

ハルカはどうやら二人の腕を確かめに来たらしい。

「ねえ、私たちのチームに入らない？」

突然の誘いだったが二人は

「「はい！」」

と行ってめでたくHokone Sander Ace（通称H.

S. A.）に入ったのだった。

ACT2「ワタシノクルマ！」（後書き）

しかし、日産が出てくる予定がないです・・・。

いや、一応スカイライン クーペ 25GT-T（ER34）をレギュラー車を出す予定ですが、仕様がまとまりません・・・。
次回はそのスカイラインが出てきます。

御意見ご感想などお待ちしております。

ACT3「H・S・A 全員集合!」 (前書き)

なかなか投稿出来なくてサーセンOTZ
こっちもいろいろ事情があるので・・・。

ACT3「H・S・A 全員集合!」

以前、矛根峠最速を誇っていたチームがあった。

現在は一端解散し、残ったメンバーはHokone Sander Aceと言うチームを再結集した。

チームリーダーは一条ハルカ、ホンダ・S2000 Type V Super Turbo (AP2・チャンピオンシップホワイト)。最大出力・450ps/8500rpm・最大トルク・45.5kg/4800rpm・車体総重量・1211kg。セカンドカーに三菱・ランサー1.8 GSR (350ps仕様。フロントはEV O2、リアはEV O3ルック)を所有。そしてチーム構成員は

深川 零・19歳。H・S・Aの前進のチームの元リーダー。現在は大学に通う傍らS耐のRGI TOYO RX-7 (FC3S)のドライバーをこなす。マツダ・RX-7 Type RZ (FD3S・2000年10月300台限定生産車・スノーホワイトパールマイカ)。最大出力・385ps/6800rpm・最大トルク・36.2kg/4800rpm・車体総重量・1205kg。セカンドカーにホンダ・シビックType R (FD2・EP3)を2台所有。

野村 光・20歳。零の姉(異母姉弟)。大学2年。生活の足にカワサキ・ZZ-R600を使用。マツダ・RX-7 Type RS-1R (FD3S・1997年10月500台限定生産車・サンバーストイエロー)。最大出力・350ps/6500rpm・最大トルク・34.9kg/5000rpm・車体総重量・1258kg。西村 弘樹・16歳。高校1年生。ホンダ・VFR400R (NC30・1992年式ブラック&レッド)。最大出力・59ps/1100rpm・最大トルク・4.0kg/8500rpm (弘樹は明日香のナビ)。

西村 明日香…18歳。弘樹の姉。高校3年生。三菱・ランサー
エボリューション9 GT (CT9A) 「AYC無し・5速MT車・
NRレッド (ホンダ・NR純正色)」。最大出力…390ps/6
500rpm・最大トルク…44.9kg/3800rpm・車体
総重量…1390kg。

御門 弘人…19歳。大学1年。日産・フェアレディZ 300
0ZXツインターボ (Z32・ソニックシルバーメタリック)。最
大出力…430ps/6500rpm・最大トルク…41.9kg
/4500rpm。車体総重量…1510kg。

野村 葵…18歳。零の義理の妹。ホンダ・インテグラType R
(DC5・ビッドブルーパール)。最大出力…300ps/85
00rpm・最大トルク…27.3kg/7500rpm。車体総
重量…1190kg。

現在矛根峠 (旧道) は完全クローズドコース化 (事実上のサーキット化) に向けての改修が行われていた。なのでH・S・Aは近く
の矛根ターンパイクを本拠地に行っている。

この峠は某映画でレインボーラインとしても登場している。また矛
根峠口からは蘆ノ湖スカイラインにも行くことが出来る。冬になる
と矛根ターンパイクは雪で覆われてしまう。基本的に使用限度は2
月の中旬から12月の初旬までだ。12月から1月末までは冬期休
業期間。

早朝のぼちぼちターンパイクが開通してくる時間帯に6台のチュー
ンドカーが峠を登っていく。

NA、ターボ、スーパーチャージャーなどエンジン音は様々。また、
ヴェンケルターボ (ロータリーターボのこと)、直4NA、直4タ
ーボ、直4スーパーチャージャー、V6ターボなど様々なエンジン
音が聞こえる。

ちなみに現在、13B-REWロータリーを積む赤いS15シルビ
アがターンパイク最速のタイムを持っている。ドライバーの名は北

隼人。R G Iのメカニックをしている男だ。H・S・A.のメンバーも面識がある。

この峠に来る者は皆そのタイムを抜こうと必死になっているのだ。今日は、新メンバーに入ったのでとハルカが全員に集合をかけていた。

頂上には6台のクルマがそろっていた。

ホンダ・S2000 Type^{ハルカ}V、ホンダ・シビックType R M-TEC MUGEN RR（零）、ホンダ・インテグラType R（葵）、マツダ・RX-7 Type RS-R（光）、ミツビシ・ランサーエボリューション9 GT（明日香&弘樹）、ニッサン・フェアレディーズ 3000ZXツインターボ（弘人）の6台だ。

新メンバーが自己紹介をしていた。

「新メンバーの西村明日香です」

「新メンバーの西村弘樹です」

ニコニコしているハルカの横で自己紹介している二人

「みんな、仲良くしてあげてね」

お決まりのセリフを言うハルカ

その日は普通に談笑して終わるはずだった。

そろそろ帰ろうかと皆が思い始めた午後10時40分頃のことである。

零が

「そろそろ帰りますか・・・」

とFD2のに乗り込もうとしたときだった

「深川零だな！」

いきなり現れた2人組に声をかけられる零

零は、めんどくさそうな顔をしながら顔を上げる。

「ちやうど良いところにいるもんだな、勝負してもらおう！」
ともう一人の相方？が言う

「何で？。俺もう帰りたいんだけど」

と全く相手にしない零

「逃げるのか？怖いのか？そうだよなあ、俺だって分かったら怖くないはずがないもんな」

こういうのを自己中で周りの見えない人というのだろうかとか心の中で呟く零だった。

「あんたの車は？」

聞かないと永遠と喋りそうな雰囲気だったので零はやれやれという感じで聞いてみる。

「俺のクルマはな、聞いて驚くなよ！シボレー・コルベットZ R—1だ！！！」

奥に見える現行型（2010年現在）シボレー・コルベットの限定グレードZ R—1だそうだ。

零は、はぁ・・・と溜息をつきながら

「それとなら、葵でも楽勝だ」

と葵を指さしながら言う

「にゃにお！！」

完全にバカにされた形となった二人組はかなりの興奮状態

「なら、その葵って言う小娘とバトルして勝ったら、お前がバトルすると言うことだな！」

葵は不安そうに零を見つめている

「まあそう言うことになるな」

ホンダ・インテグラType R VS シボレー・コルベットZ R—1

300馬力のマシン対600馬力オーバーのマシンの対決になった勝負はダウンヒル一本

「お兄ちゃん・・・自信・・・無い」

スタート前に不安な顔をする葵に零は

「心配するな、いつも通りに走ればいいよ」

普通のアドバイスしかしないのが零だ。

2台のクルマがスタートラインに並ぶ

「6・5・4・3・2・1・GO」

ハルカが叫ぶと

インテグラがスタート

コルベツトは動かない

「あんた余裕だな」

零はコルネットのドライバーに話しかける

「ハンデだよハンデ、こうでもしないと楽しくならないだろう」

たいした自信だと零は感じていた

30秒後コルベツトがスタートする

走り去るコルベツトを見ていた零に明日香が話しかける

「あの、平気なんですか？心配とかしてませんか？」

零はきょとんとした顔をして

「葵のこと？それなら平気だよ。だってあいつ集中してくると性格変わるもん」

零は麓を見つめながら言った。

続く

ACT 3「H. S. A. 全員集合!」(後書き)

まあしかし、よほどのボンボンですねコルベットとはねえ。

書いてる自分が言うのは何ですが、何でコルベットにしたんだろう。
御意見ご感想をお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1445j/>

峠バトル2010

2010年10月21日22時01分発行